

ポルトガル月報

2017年5月

(本月報は報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政・外交】★統一地方選挙、ポルト市長選の動向／★コスタ首相、ラホイ・スペイン首相と首脳会談

【経済】★ポルトガル政府、「パンダ債」の発行を計画／★ポルトガル、EUの過剰財政赤字是正手続を終了

【社会・その他】★フランシスコ・ローマ法王、聖地ファティマを訪問

内政・外交

★統一地方選挙、ポルト市長選の動向

本年10月1日の統一地方選挙の勝敗を評価する上で重視されている北部ポルト市長選を巡り、5月3日、同選挙の社会党責任者を務めるカタリーナ・メンデス副書記長がメディアのインタビューで、再選を目指しているモレイラ現ポルト市長（政党無所属）に対する有権者の支持は、社会党の勝利も意味する旨発言したことで、これまで協調関係にあった同市長と社会党の間に軋轢が生じることになった。

ポルト市長選では元々、モレイラ市長が提出する同市評議会（政務担当）候補者名簿に社会党の候補者を含める方向で協議が続いていたが、同副書記長による突然の発言に強く反発したモレイラ市長側が協力関係解消という強い反応を示したことで、今次選挙では、2013年の前回選挙同様、同市長率いる地方政治運動「我々の政党はポルト」と社会党がそれぞれ独自の候補者名簿を提出し、票を競い合う構図になると見られる。

●ポルトガル、東ティモールの農業開発を支援

5月5日、カポウラス・サントス農業・森林・地方開発大臣は、ポルトガルを公式訪問した東ティモールのエスタニスラウ・ダ・シルバ農業・漁業大臣と会談し、東ティモールの農業開発と専門家の育成に向けた協力覚書の将来的な締結を通じ、ポルトガルは同国の発展を支援する用意があるとの考えを示した。

同会談では特に東ティモールにおける植物種の分類や国家植物標本集の編さん、水系の明確化、動植物の衛生管理技術の枠組み策定などを話し合った。ダ・シルバ農業・漁業大臣は6日までの滞在中、ポルトガル内陸部のダムや農業会社なども視察した。

カポウラス・サントス大臣は5月19日、東ティモールの首都ディリで行われた同国の独立15周年記念式典及び、フランシスコ・グテレス・ル・オロ新大統領の就任式に出席した。合わせてポルトガル政府が技術協力している現地の農園「キンタ・ポルトガル」などを視察した。

●コスタ首相、1月のインド訪問の成果を強調

5月6日、コスタ首相はポルトガルに暮らすインド西部ゴアの出身者らによる交流協会施設「ゴアの家」（リスボン市）の設立30周年の記念式典に招かれ、同協会の名誉会員証を授与された。

コスタ首相は、本年1月に父親の出身地であるゴア州を含むインド各地を訪れたことについて、「私の外国への数多くの公式訪問の中でも最も感動的だった」と振り返った上で、インドの大手企業がポルトガルに新工場を設立する予定であることや、ポルトガルの観光学校で学ぶインド人の学生グループの第1陣がリスボンに到着したばかりなどの具体例を挙げて、両国関係の強化に向けた同訪問の成果は既に見られていると強調した。



【写真】「ゴアの家」で歓迎されるコスタ首相（ポルトガル政府プレスリリースより転載）

★仏大統領選挙、ソウザ大統領とコスタ首相が祝辞

5月7日、仏大統領選挙の決選投票でマクロン候補が勝利したことを受け、ポルトガル大統領府はソウザ大統領の祝辞を掲載した。

ソウザ大統領は「仏及び欧州の勝利であると共に、民主主義及び法の支配の勝利である。また、仏の自由・平等・博愛といった基本的価値の勝利でもある。この価値は、ポルトガル知識人の模範的な行動を育み、また、最も窮乏した時代に仏に渡った多くのポルトガル移民を照らす灯となった。(当時のポルトガル移民が)感じたように、適切な統合を進めるために、仏当局による(ポルトガル移民の)受け入れ、ホスピタリティ及び決意を評価したい」と述べた。

コスタ首相も同日、自身のツイッターで「(本選挙結果は) 仏、欧州そしてポルトガルにとって良いニュース。我々は、マクロン次期大統領と良好なパートナーシップを築けると信じている。また、同次期大統領が、より強く、団結・結束した欧州の建設に尽力するものと確信している」などと投稿した。

●コスタ首相、カタールを公式訪問

5月7日、コスタ首相は、コスタ・オリヴェイラ外務省国際化担当副大臣と、4月に就任したカストロ・エンリケス・ポルトガル投資・貿易振興庁(AICEP)新長官とともにカタールを公式訪問し、タミーム首長、アブドゥラー首相兼内務大臣らと会談した。

コスタ首相は、本公式訪問の目的を観光促進、カタール企業のポルトガル誘致、インフラ建設プロジェクトにおけるポルトガル企業の参入、ポルトガル債権保有者の多角化、ポルトガル語教育の普及と説明。同国滞在中、カタール商工会議所やカタール企業連盟の代表者と会合を開いた他、カタール財団、ハマド・ビン・ハリーフ大学、現地のポルトガル人コミュニティを訪問した。

タミーム首長は本年7月4～5日にポルトガルを訪問予定で、2018年にカタール航空がリスボンドーナ便の開設を予定している。



【写真】会談するコスタ首相とタミーム首長（コスタ首相の公式ツイッターより転載）

●情報機構(SIRP)長官の交代

5月9日、ポルトガル首相府は、共和国情報機構(SIRP)のジュリオ・アルベルト・カルネイロ・ペレイラ長官の辞任と、その後任として、ジョゼ・ジュリオ・ペレイラ・ゴメス大使(スウェーデン大使)が就任する人事を発表した。

ゴメス大使は1980年にリスボン大学法学部を卒業し、1984年に外交官としてのキャリアを歩み始めた。ゲテーレス政権下で防衛副大臣(1995年-97年)を務め、80年代にはポルトガル領であったマカオ政庁でも同政庁長官付外交補佐官などの要職を務めた経験がある。

●ソウザ大統領、サントメ・プリンシペ大統領と会談

5月10日、ソウザ大統領は8日から1週間の日程でポルトガルを訪問したサントメ・プリンシペのカルヴァーリョ大統領とリスボン市内で会談し、昨年12月のサントメ・プリンシペと中国間の国交回復に祝意を伝えた上で、今後、同国の社会経済の発展に向けたポルトガル・中国による三角協力なども想定できるとの見方を示した。

ソウザ大統領はまた、ポルトガルが提案しているポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)における人の移動の自由化構想にサントメ・プリンシペが理解を示していると述べた。

●ポルトガル、コソボ治安維持部隊への軍派遣終了

5月11日、ロペス防衛大臣はNATOのコソボ治安維持部隊(KFOR)ミッションを終えて最後に帰還したポルトガル軍部隊の隊員167人をリスボン市内のフィーゴ・マドゥーロ軍用飛行場で迎え入れ、その功労をたたえた。

ポルトガル軍はKFORに2002年～04年を除いて1999年から参加し、派遣兵の総数は約7,000人に及ぶ。同軍の撤退は、昨年10月の防衛上級評議会で決定し、ハンガリー軍の別隊に任務を引き継いだ上で、本年4月末から帰還を始めていた。

同大臣は「ポルトガル軍の撤退は、NATOにおける我が国の貢献を減らすものではなく、海外に派遣されている他のポルトガル軍の引上げを意味するものでもない」と述べた。



【写真】派遣隊員をねぎらうロペス大臣（ポルトガル政府プレスリリースより転載）

●ユーロソングージェン社の世論調査結果—5月

5月12日、週刊エスプレッソ紙は、ユーロソングージェン社が実施した世論調査の結果を発表した。2016年12月以降の政党別支持率は以下の通り。

【問】本日が選挙日ならばどの政党に投票するか。

%	2016年		2017年			
	12月	1月	2月	3月	4月	5月
PS	38.0	37.3	37.8	38.3	39.3	39.0
PSD	30.0	30.0	29.2	28.8	29.3	29.0
BE	9.1	9.5	9.2	9.2	9.0	9.0
CDU	7.7	7.8	8.3	8.0	7.5	7.6
CDS	6.8	6.9	7.0	7.2	6.4	6.9
PAN	1.6	1.6	1.5	1.8	1.4	1.2

■調査期間：5月3～10日、対象者：ポルトガル本土居住の18歳以上の有権者1,184人、調査方式：電話帳から固定電話番号を無作為に抽出、回答率：85.0%、統計上の誤差：3.09%

■PS=社会党、PSD=社会民主党、BE=左翼連合、CDU=統一民主連合（ポルトガル共産党・緑の党）、CDS=民衆党、PAN=人と動物と自然の党

●国際化担当副大臣、中国の国際フォーラムに出席

5月14～15日、コスタ・オリヴェイラ外務省国際化担当副大臣は、北京で開かれた中国の「一帯一路」国際協力ハイレベルフォーラムにポルトガルを代表して出席した。

同副大臣は14日、新華社通信に対し、「一帯一路」構想は世界各国のインフラ建設プロジェクトのペースを加速させるとともに、世界中の人々に恩恵をもたらすとした上で、ポルトガルとしては、同国中部の主要港シーネスの拡張や、ポルトガルと北アフリカを結ぶ電力網の構築プロジェクトにおいて中国と協働することに関心があるなどと述べた。

●ポ政府、北朝鮮の弾道ミサイル発射に非難声明

5月15日、ポルトガル政府は、14日の北朝鮮による弾道ミサイル発射を非難する声明を発表した。内容は以下の通り。

「ポルトガル政府は、昨日の北朝鮮による弾道ミサイル発射は、数々の国連安保理決議に基づく責務に改めて明白に違反する行為であり、地域及び国際の平和を脅かす行為として非難する。ポルトガル政府は、国連安保理決議により満場一致で課された対北朝鮮制裁措置及びEU独自の措置に対するポルトガルの厳格な履行を強調するとともに、北朝鮮に対し核プログラムに関する国際社会との真剣な対話への復帰を求める。」

●ソウザ大統領、クロアチアを公式訪問

5月18～19日、ソウザ大統領はクロアチアのキタロビッチ大統領の招待を受け、同国を公式訪問した。マルガリーダ・マルケス外務省欧州問題担当副大臣、カストロ・エンリケス・ポルトガル投資貿易振興庁(AICEP)長官や与野党の国会議員4人が同行した。

ソウザ大統領は、キタロビッチ大統領、プレスコビッチ首相との会談、クロアチア国会議長とのワーキングランチを実施した他、AICEPとクロアチア経済会議所の間で行われた協力協定の署名に立ち会った。

両大統領は記者会見で、来年ポルトガルで開催する2国間企業フォーラムに合わせ、キタロビッチ大統領がポルトガルを訪問する予定と発表した。

ソウザ大統領はこの他、アズレージョ美術館の開館式やザグレブ大学在席のポルトガル人学生との意見交換会などにも参加した。

ポルトガルの大統領がクロアチアを訪問したのは、同国が2003年にEU加盟を果たしてから初めて。本年は両国の外交関係樹立25周年を迎えた。



【写真】ソウザ大統領(左)とキタロビッチ大統領(ポルトガル大統領府HPより転載)

●ソウザ大統領、ルクセンブルクを公式訪問

5月22～25日、ソウザ大統領はルクセンブルクを国賓として公式訪問した。ルイス・カルネイロ外務省コミュニティ担当副大臣、マルガリーダ・マルケス同省欧州問題担当副大臣や与野党の国会議員4人が同行した。

23日、ソウザ大統領は、ルクセンブルク市内の大公宮府前の広場でアンリ大公夫妻の歓迎を受けて懇談後、ディ・バルトロメオ国民議会議員長、ベッテル首相及びアセルボーン外相と会談した。午後はポルファー・ルクセンブルク市長とともに学術会議に参加し、夜はアンリ大公夫妻主催の歓迎夕食会に出席した。

24日はベッテル首相との昼食後に共同記者会見を開き、両国のEUに対する共通のビジョンを強調した上で、「27か国全てが欧州の強化に向けて日々尽力する必要がある。雇用の創出、経済成長、外交、治安及び英国との交渉を通じ、欧州がより活発化することを期待する」と述べた。また、両国の衛星通信分野における協力を評価するとともに、ルクセンブルクにおけるポルトガル語教育の重要性を強調した。

ベッテル首相は、2016年欧州サッカー選手権と2017年ユーロビジョン・ソングコンテストで、ポルトガル代表が優勝したことに祝意を述べた上で、ポルトガルがEUから課せられた過剰財政赤字是正手続きを終了したことに言及した。「この成果は、センターノ財務大臣のみならず、様々な犠牲に耐え抜いたポルトガル国民の力によるものである。辛抱強く働き者であるポルトガル人は、欧州において重要な役割を担いうる。ルクセンブルクで生活するポルトガル人は我々家族の一員であり、彼らはポルトガルの心を維持しながらも、(ルクセンブルクの社会に)溶け込み、我々の国を作り出している」とたたえた。

ソウザ大統領はこの他、ルクセンブルク大学や現地のポルトガル人コミュニティなどを訪問した。現在、

ルクセンブルクには総人口の約16%に相当する10万人近いポルトガル人が暮らしている。なお、本年4月にはコスタ首相も同国を訪問している。



【写真】アンリ大公夫妻の歓迎を受けたソウザ大統領(中央:ポルトガル大統領府HPより転載)

●ベトナム副首相兼外相、ポルトガルを訪問

5月25日、ベトナムのファム・ビン・ミン副首相兼外相がポルトガルを訪問し、フェロ・ロドリゲス国会議長を表敬後、サントス・シルヴァ外相と会談した。

同会談では、ブルーエコノミー、観光、エネルギー、薬品産業、食料品に関する関税障壁の撤廃といった経済関係に加え、文化関係においては、昨年11月にハノイ大学に新設されたポルトガル語センターなどが議題に扱われた。会談後、両国外相は2国間協議に関する覚書と外交官養成及び情報・資料共有に関する覚書にそれぞれ署名した。

昨年、ポルトガルとベトナムは友好500周年を迎え、様々な行事が両国で催された。

★コスタ首相、ラホイ・スペイン首相と首脳会談

5月29～30日、第29回ポルトガル・スペイン首脳会談のため、ラホイ首相がポルトガルを訪問した。両首相は、国境間協力、環境、エネルギー、インフラ、観光、治安、科学技術、雇用、安全保障などの分野で協力関係を確認する共同宣言を発表した。

また、同会談に合わせて実施された、外交、防衛、科学技術、高等教育、社会保障の各分科会で、国際河川であるミーニョ川及びグアディアナ川における境界画定に関する協定、巡礼地サンティアゴ及びファティマにおける観光促進のための協力プロトコール、宇宙科学技術分野に関する覚書、両国の国境警備強化に関する宣言など計8本の署名が行われた。



【写真】ラホイ首相(左)とコスタ首相(コスタ首相の公式ツイッターより転載)

経済

●ポルトガル失業率、大幅に改善

5月2日、EU統計局（ユーロスタット）は3月のユーロ圏（19か国）平均失業率を前年同月から0.7ポイント減、前月比横ばいの9.5%になったと発表した。2009年4月以来で最も低い水準。

3月のポルトガルの失業率は9.8%と、前年同月から2.2ポイント減った。改善幅はユーロ圏で最も大きかった。若年失業率も前年同月の31.1%から23.3%（ユーロ圏平均は19.4%）へと大きく改善した。ソウザ大統領は同日、「ポルトガル経済の成長と雇用の創出が反映されている。全国民にとって大きな喜び」と述べた。

5月10日、ポルトガル国立統計院（INE）は、2017年第1四半期（1-3月期）の平均失業率を10.1%（前期比0.4ポイント減；前年同期比2.3ポイント減）、失業者数は52万3,900人（前期比3.5%減；前年同期比18.2%減）と発表した。

このうち、若年層失業率（15～24歳）は25.1%（前期比2.6ポイント減；前年同期比5.9ポイント減）だった。

●第1回「中国・ポルトガル経済フォーラム」開催

5月2日、リスボン近郊のエストリル市で、中国の「一帯一路」構想をテーマにした第1回「中国・ポルトガル経済フォーラム」が開かれた。

カルデイラ・カブラル経済大臣が登壇し、「ポルトガルはアジアと欧州の間に橋を築いただけでなく、欧州市場に投資し、生活し、または、単に留まるだけの目的においても、（世界の投資家らに向けた）欧州へのゲートウェイとなるピボット（中心）のように中国の戦略の中にある」などと述べた。

本フォーラムに出席したポルトガル国営通信LUSAKAのテレザ・マルケスCEOは「既に北京とマカオに特派員を置いているように、我々は常に中国を最優先にしている。中国はポルトガルを含めて世界で不可欠な役割を担っている」と評価した上で、新たに特派員を上海に派遣する意向を示唆した。

ポルトガル国営テレビRTPのゴンサーロ・レイス

CEOも、ドキュメンタリーやフィクション番組の制作で中国のTV局と協力する考えを示した。

●ポルトガル、企業・投資誘致に意欲—英EU離脱で

5月3日、カルデイラ・カブラル経済大臣は訪問先の英国で、ポルトガル国営通信LUSAKAに対し、ポルトガル政府は英国のEU離脱の機会を活かし、英国からの投資や同国に拠点を置く企業の呼び込みに力を入れていると述べた。

同大臣は、ポルトガルの魅力として、英国と時差がなく、英語が堪能で金融業界に詳しい人材が多いことや、不動産価格や生活費が他のEU加盟国よりも低いことを利点に挙げた上で、「我々はポルトガルでの事業拡大に関心を持っている大企業が英国に存在すると考えている。ポルトガルは英国のEU離脱プロセスに不安と注意をもって向き合っているが、一方で、EU圏内で事業を継続したいと考えている企業に道を開ける良い機会でもあると捉えている」と語った。

●コスタ首相、コロンビアとの経済関係強化に期待

5月4日、コスタ首相はポルトガル・コロンビア商工会議所がリスボン市内で開いた夕食会で演説し、「我々はコロンビアの経済面、政治面について良く知ることができている。コロンビア市場はポルトガルの輸出を増やす上で大きな可能性を秘めている。両国はそれぞれ新しいページをめくり上げる段階にある」と述べた。その上で、同国のマヌエル・サントス大統領が本年中にポルトガルを訪問する予定と説明した。

★ポルトガル政府、「パンダ債」の発行を計画

5月6日、3日間の日程で北京を訪問したセンターノ財務大臣は、ポルトガル国営通信LUSAKAに対し、中国市場で人民元建てポルトガル国債（パンダ債）を発行する計画を明らかにした。実現すればユーロ圏で初めて。

ポルトガル財務省の公式ツイッターなどによると、センターノ大臣は5日に中国人民銀行の副総裁らと本件を協議したほか、中国工商銀行、中国銀行、中国農業銀行、中国郵政貯蓄銀行など同国の主要銀行幹部と会談した。同大臣は「（パンダ債発行は）我々の投資家の基盤を広げるとともに、資金を（ポルトガルに）

呼び込むための一策。作業は残っているが、（銀行幹部らとの）対話はうまくいった」と説明した。

人民元建て国債の発行には、大手格付会社（ムーディーズ、スタンダード&プアーズ、フィッチ）によるポルトガル長期国債の信用格付が投資適格級に引き上げられることが必要になるとの見方もある。

今次訪問には、アルバロ・コスタ国庫担当副大臣とクリスティーナ・カザリーニョ国庫・公債管理局長が同行した。

●長期国債の発行

5月10日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、5年物及び10年物長期国債の入札を実施し、総額12億5,000万ユーロを調達した。落札平均利回りは5年物が1.828%、10年物が3.386%。

●ポルトガル商業銀行、新経営評議員2人が就任

5月10日、ポルトガル商業銀行（BCP）の年次株主総会がリスボン近郊のオエイラス市で開かれた。現大統領の弟で弁護士のペドロ・レベロ・デ・ソウザ氏が総会議長（任期3年）に就任することが承認され、同氏がこの日の議事進行を務めた。BCPの2016年度決算は2,390万ユーロの黒字だった。

このほか、BCPの株式約25%を取得して筆頭株主となった中国の復星国際が指名した新経営評議員2人の就任が正式に承認された。1人は国営ポルトガル貯蓄銀行（CGD）の最高財務責任者を務めたことがあるジョアン・ヌノ・パルマ氏で、BCPの第3副頭取（取締役）を兼ねる。もう1人は、復星国際リスボン支店代表を務めている中国人のLinJiang Xu氏。

Xu氏は5月28～30日、世界70か国から400人以上が集ってリスボン近郊のカスカイス市で開催された「2017ホラス・グローバル・ミーティング」に参加し、「我々はパートナーとのビジネスを円滑に行いたいと考えており、買収先企業の経営陣の中で信頼を維持できるように努めている」などと述べた。

同ミーティングでスピーチしたコスタ首相は、ポルトガル経済や財政状況の改善、最近の欧州情勢などに触れた上で、「ポルトガルは欧州以外の世界とも（関係を）求めている」として、特に最近是中国やインド

との関係強化に注力していると説明した。その上で、「中国からの更なる投資は（これまでのように金融業界が中心ではなく）産業界に向けられることを期待したい」と述べた。

●ポルトガル、国産キウイをウルグアイへ輸出

5月11日、ポルトガル農業・森林・地方開発省は国内産キウイをウルグアイに輸出するために必要な植物検疫について同国と合意に至ったと発表した。

同省によると、同合意はポルトガルのキウイ生産者にとって、約340万人（ウルグアイの人口）の潜在的な消費者を有する新たな市場に道を開く重要な一歩。ポルトガルの農業食品分野の競争力強化に向けた国際化推進策は政府の優先課題に位置付けられている。

●2017年第1四半期GDP成長率の発表

5月15日、ポルトガル国立統計院（INE）は、2017年第1四半期のGDP成長率を前期比1.0%増、前年同期比2.8%増と発表した。同院によると、大幅な輸出増加が大きく貢献した。

★ポルトガル、EUの過剰財政赤字是正手続を終了

5月22日、欧州委員会は2009年からポルトガルに課していた過剰財政赤字是正手続の終了を欧州理事会に勧告したと発表した。

ポルトガル財務省は同日、プレスリリースを發出し、欧州委員会の決定を歓迎するとした上で、「ポルトガルは2016年に財政赤字の対GDP比2.0%を達成し、1975年以降最も低い水準となった。2017年は更に低減して同1.5%、また、基礎的財政収支についてもEU域内で最も高水準の2.7%の黒字となることが見込まれる。政府は潜在成長率を高め、持続的かつ包括的な経済的繁栄を確保するため、野心的な改革に全力で取り組む」との見解を示した。

コスタ首相は「ポルトガルが本日たどり着いたこの結果は、国家的な成功であり、全ての国民にとって大きな価値を有する。我々は雇用、企業、所得、貯蓄、及び多くの国民の人生の期待を打ち壊し、大きなトラウマとなったこのプロセスを経験することは今回で最後にしなくてはならない。また、成長、最良の雇用及び最大の平等という3点を実現できる責任ある財政政

策をもって、既に築き上げているこの道を一層歩み続けなくてはならない」などと声明を発表した。

ソウザ大統領は同日、電話でユンカー欧州委員会委員長に対し、ポルトガルが引き続き財政再建のコミットメントを果たしていくことを約束した上で、これまでのポルトガル人の努力と犠牲に対して欧州委員会から信認を得られたことに喜びの声を伝えた。また、本手続の終了を実現した政府の一連の取組を踏まえ、アントニオ・コスタ首相とパッサス・コエリョ前首相をたたえた。

社会・その他

★フランシスコ・ローマ法王、聖地ファティマを訪問

5月12～13日、ポルトガル中部の聖地ファティマで聖母マリアが出現するという奇跡が起きてから100年を迎えたことを記念し、フランシスコ・ローマ法王が同地を訪問した。

12日夕方、法王はモンテ・レアル空軍基地にアリアタリア航空機で到着後、ソウザ大統領、コスタ首相、フェロ・ロドリゲス国会議長、サントス・シルヴァ外相、アゼレート・ロペス防衛相らポルトガル政府要人及びカトリック教会の関係者に迎えられた後、同基地の施設内でソウザ大統領と数十分間会談した。

フランシスコ法王はその後、40キロメートル程離れたファティマにヘリコプターで移動し、世界各地からの巡礼者で埋め尽くされた聖堂前の広場をオープンカーで通過後、100年前に幼い羊飼ひ3人を前に聖母が姿を現した場所とされる「出現の礼拝堂」で8分間にわたり祈りを捧げた。夕食後、同礼拝堂で「ろうそくの祝別」を行い、ロザリオの祈りを唱えた。翌13日は広場でミサを捧げ、羊飼ひ2人（フランシスコとジャシント）の列聖式を執り行った。

ポルトガルの治安当局は、5月10～14日に入国管理を強化。対象となったのは14万6,893人、車両8万7,833台、船舶81隻、鉄道20本で、最終的に車両8台、銃器46丁、現金70万8,000ユーロ、大麻36.65キログラムなどを押収した。逮捕者は計63人で、うち銃器不法所持が34人と最も多

かった。

ソウザ大統領は昨年3月、大統領就任後初めての外国訪問としてバチカン市国を訪れ、法王にポルトガル訪問を要請していた。今回の法王訪問に合わせ、サントメ・プリンシペ、パラグアイから大統領が、ポーランド、セネガル、グアテマラなどから政府要人がポルトガルを訪れた。



【写真】フランシスコ法王に挨拶するコスタ首相（左端）とソウザ大統領（同首相公式ツイッターより転載）

●「ゴールド・ビザ」の総発給数、約5千件

ポルトガル国境・移民管理局（SEF）の統計によると、一定条件を満たした外国人投資家に居住許可を付与する通称「ゴールド・ビザ」制度の発給件数は、2012年10月の制度開始から2017年3月末現在で累計5,003件に達した。

そのうち、中国人による取得数は3,376件と全体の67%を占め、2位以下のブラジル403件、南アフリカ180件、ロシア173件、レバノン99件を大きく引き離している。なお、同制度を通じてポルトガルが得た投資額は約30億ユーロに上る。（了）